

捕鯨船 第16利丸

whaling ship/ "Toshi Maru No.16"

船 歴

1959年(昭和34年)日本は南氷洋捕鯨で捕獲頭数世界一となりましたが、大洋漁業(株)(現マルハニチロ(株))はその前の年に、所有する3つの捕鯨船団に最新鋭の大型高速捕鯨船を“指揮船”として、それぞれの船団に投入し競争力を高めました。

その3隻のうちの1隻が、この『第16利丸』でした。初代砲手は日本一の名砲手と言われた泉井守一氏で、成績は常に優秀であったことから、捕鯨船乗りの憧れのキャッチャーボード(捕鯨船)だったと語り継がれております。

母船式捕鯨を退いた後、最後は鮎川を拠点としていた日本捕鯨(株)の所属船となり、昭和62年12月25日の金華山沖操業を最後に30年間続いた現役を退きました。

その後、平成2年に「おしかホエールランド」の陸上展示船となり現在に至っております。

このため、展示船の煙突には南氷洋時代の『@』マークではなく『日本捕鯨(株)の社旗』がペイントされております。

船 体

総トン数	758.33t
純トン数	236.62t
長さ	68.37m
幅	9.90m
深さ:船首	2.58m
深さ:船尾	4.84m
馬力	3,500馬力
最大速力	17.555ノット(32km)
経済速力	14ノット(26km)



操業時の『第16利丸』